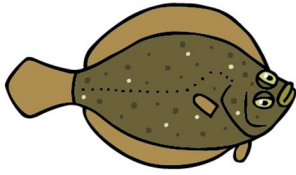


# マコガレイ (東京湾)



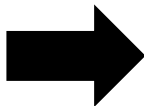
- ・ 東京湾においては、内湾から内房海域で、小型機船底びき網、刺網で漁獲される。
- ・ 産卵期は冬季で、湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。
- ・ 1991年から種苗放流を実施。

## 資源評価

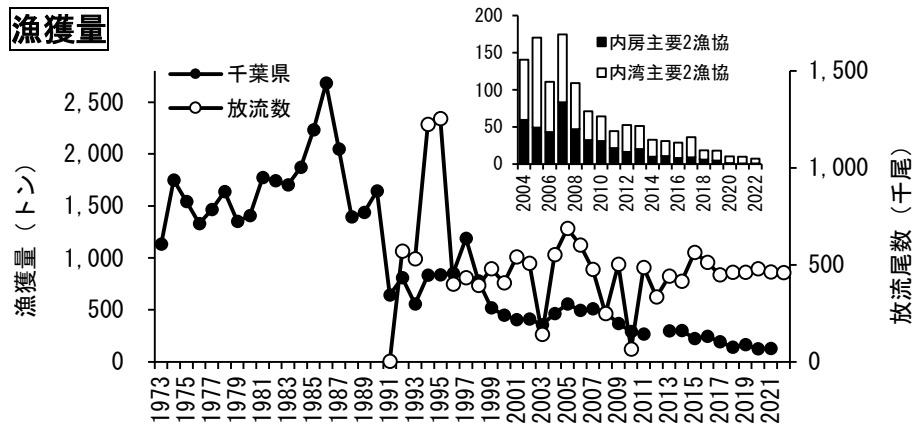
水準：低位



動向：横ばい



## 漁獲量



かれい類漁獲量、マコガレイ地区別漁獲量及び放流尾数の経年変化

折れ線グラフ：千葉農林水産統計年報（かれい類漁獲量）

棒グラフ：千葉県調べ

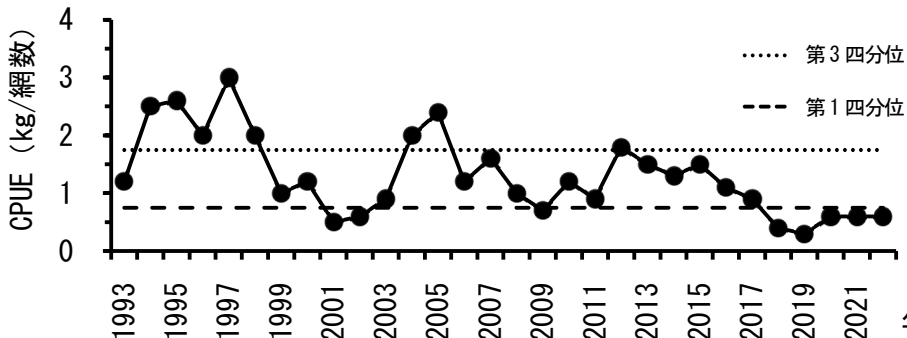
東京湾におけるかれい類の漁獲量は、過去にはイシガレイ主体であったが、その後マコガレイ主体となった。

マコガレイの漁獲量は、長期的に減少傾向にあり、2008年には100トン程度だったが、近年は10~20トン程度で低迷している。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。
- ・ 2022年の資源水準は低位、最近5年間の資源動向は横ばい傾向にある。



小型機船底びき網の標本漁船によるマコガレイの1網当たり漁獲量(kg/網数:CPUE)の経年変化

標本漁船の隻数は年によって変わり、その範囲は6~16隻

## 資源管理の取り組み

- ・ 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定及び漁具の制限、稚魚や産卵親魚の保護のための禁漁区設定、県との稚魚分布調査など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1991年から県が種苗放流を行っている。